

^{60}Co

^{36}Cl

^{87}Rb

ISSN 0289-9906

名古屋大学アイソトープ総合センター

^{87}Rb

^{36}Cl

^{55}Mn

^{60}Co

^{45}Ca

^{32}P

Tracer

^{22}Na

^{57}Co

^{35}S

^{129}I

^{125}I

^{131}I

^{51}Cr

^3H

^{40}K

^{137}Cs

^{147}Sm

^{75}Se

脊椎動物の光周性の制御機構

$^{99\text{m}}\text{Tc}$

^{51}Cr

^{14}C

^{125}I

^{14}C

^{137}Cs

^{129}I

^{57}Co

^{40}K

^{75}Se

^{147}Sm

^{131}I

^{55}Mn

^{32}P

^3H

^{22}Na

^{36}Cl

^{87}Rb

^{60}Co

^{45}Ca

^{35}S

$^{99\text{m}}\text{Tc}$

2004 Vol. **36**

Tracer 第36号

目 次

巻頭言

専門書と学術誌：発信と受信	前 島 正 義	1
---------------------	---------	---

研究紹介

脊椎動物の光周性の制御機構	吉 村 崇	3
---------------------	-------	---

トピックス

21世紀COE一同位体が拓く未来へ参画	西 澤 邦 秀	5
平成16年度 共同利用研究課題一覧		8
平成16年度 センター利用者一覧		11
講習会・学部実習		15
講習会修了者名簿		18
センターを利用しての学位授与者		21
放射線安全管理室からのお知らせ		22
機器紹介		22
委員会の報告		23
アイソトープ総合センター協議会協議員名簿		24
アイソトープ総合センター運営委員会運営委員名簿		24
人事異動		24
編集後記		25

専門書と学術誌：発信と受信

名古屋大学農学部・生命農学研究科

放射線取扱主任者

教授 前 島 正 義

「放射線安全取扱の基礎：アイソトープからX線・放射光まで」のテキストは2001年4月に出版され今春には第二版が出た。センター長西澤先生が編集会議を招集されたのは2000年春だった。アイソトープの取り扱いの全般を分かりやすく説明したテキストがない、是非、これを名大から出版しよう、という提案説明の後、全体イメージ、記載する具体的な項目の選定、配列順、価格など、数回の活発な議論の中で企画がまとまり、「これなら、絶対に売れます。」との名大出版会編集担当者の言葉に意を強くしつつ刊行に至った。チェルノブイリ・JCO事故に加え、放射線の人体への影響に関する最新の知見、利用頻度の高い放射光、そして改正法の解説もあり、さらにルールを守ることについての「郷に入ったら郷に従え」という記憶に残る言葉も散りばめられている。アイソトープの講習になくてはならないテキストであり、初版は完売、第二版も書評欄等で絶賛されている。編集長と関連の先生の企画力と努力が評価されている。

幸い、このように多くの人の手に渡る本もあるけれど、学術図書の出版は、教科書以外の専門書は難しい状況になってきている。買ってもらえないからである。定期刊行物であれば、広告ページによって出版経費の一部をカバーし得るが、専門書であれば販売数に依存する。学生は研究室や図書室の書棚で間に合わせることができ、必要な部分はコピー可能である。学生自身の書棚が本で埋めつくされることは珍しくなった。国際学術誌もコピーでなく電子ファイルとして容易に手に入る。つい最近、中国語の専門書は1万部は売れると、中国の先生から伺った。英語版であればたとえ専門書であっても日本のマーケットの10倍は期待できる。したがって、よいテキストをつくるために十分な投資が可能である。ごく少数の執筆陣で統一のとれた内容にすることが可能であり、分かりやすい図版の作成にも手間ひまをかけることが可能である。実際、国際的評価を得た教科書だけが生き残っている。勢い、日本の出版社も著名な海外の教科書を翻訳して販売する傾向が強くなる。

筆者も多くの先生とともに、24章からなる分厚い米国の教科書の翻訳版を準備し、今秋出版の最後の追い込み中である。学生に英語の原書を与えればよいかもしれないが、学問の概念や新知見を英語で理解することは容易でない。日本語できちんと把握していれば、英文を読むことが可能になる。教育の過程で翻訳教科書は必要であろうとおもう。今春の入学試験監督で同席した語学の先生が、「海外からの子供たちが日本語を上手に話すからといって、小中学校の各教科の概念をきちんと理解しているわけではない、ということを親も教師も見落としがちである。」と話してくれた。専門研究の領域でも同じかもしれない。英語の専門用語を口に出すからといって、その概念や原理を理解しているとは限らない。日本人学生に対して、日本語で先端研究の概念をきちんと伝えることは大学・大学院教育の大事なポイントである。

学ぼうとする者、研究のために具体的な知恵を求めている者に、専門書は救いの手を差し伸べてくれる。たとえ1つでも知恵を授けてくれるのであれば、たとえ数千円の本であっても高いとは思えないが、学生の節約ガードも堅く、そう簡単には本を購入してくれない。節約は学生個人だけでなく大学図書館も同様である。広告を入れられない学会主体の学術誌は、図書館での購入が頼りである。学術誌は講読数の減少

が、単価の上昇に跳ね返る。筆者の関わる日本発の学術誌は、外国大学図書館等600件、外国個人320名、国内図書館等120件、国内個人2,300名に届けられ、オンラインジャーナルとしても発信している。インパクトファクター等での評価も高い。学術誌も専門書も本とオンライン版の出版には、手間と暇とお金がかかる。専門誌は大学教官を含めた研究者のボランティアで成立している部分が多い。それでもぎりぎりの経営になっている。その一方で、強気の国際ジャーナルは論文投稿者に全てのコストを負担してもらい無償で国際配信する、といった提案をしている。1編40万円の投稿・掲載料になるようで、資金の潤沢な研究室だけのジャーナルになるおそれがある。学術誌の刊行、とくに日本発の国際誌の出版は、輸入超過といわれる学術情報において、それを改善する最もよい活動とおもわれる。国として、安定した長期の資金援助が不可欠である。実験装置や試薬など「もの」だけではなく、人や情報への投資も求められている。

大学は知を生産し、これを言葉として社会に送り出して「コモンドメイン」にプールし、知を人類共有財産にする責務を負っており、それが本や学術誌の編集出版の意味のようにおもう。できればその知を多くの学生が利用し、知の生産に活用してほしい。

脊椎動物の光周性の制御機構

名古屋大学大学院生命農学研究科

バイオモデリング講座

動物行動統御学研究分野

吉 村 崇

はじめに

自然界には1日の明暗サイクル、潮の満ち引き、四季の変化など、周期的な現象が存在する。生物はこれらの周期的な環境の変化に、よりよく適応するために、体内に時を刻む計時機構を備えている。我々はその中でも、生物がどのように季節を読み取り、四季の変化に適応しているのかという疑問に取り組んでいる。動物においては渡りや冬眠、脂肪の蓄積、換羽（毛）などにも季節性が認められるが、子孫をより良い環境で残すために、繁殖時期も1年のある時期に制限しているものが多い。ほとんどの生物は日長（光周期）を手がかりとしてこれらの生理機能の季節性を制御するため、これらの季節性変化は光周性と呼ばれている。

鳥類の光周性の制御機構

脊椎動物の中でも、鳥類は渡りなどの行動が目につきやすいことから、光周性の研究の対象として古くから用いられてきた。その中でも最も優れた研究材料はウズラであり、世界中で使用されている。我々の食べる卵は年中食卓に並んでいるが、これは動物が光線管理によって常時長日条件下で飼育されているためであり、実際にはウズラは明瞭で劇的な光周反応を示す。東海地方は名古屋コーチンでも有名であるが、ウズラについても豊橋地方が日本一の産地であることから、我が名古屋大学では家禽の研究が盛んに行なわれてきた。

鳥類の研究はヨーロッパで盛んに行なわれてきたが、ウズラの光周性の主要な研究は1960年代から1990年代にかけて英国の Sir Brian Follett に

よって行なわれた。彼らは脳の破壊実験や長日刺激後の c-Fos の発現解析などを通じて視床下部内側基底部（mediobasal hypothalamus : MBH）に光周性を制御する中枢があると指摘していた。我々は最近この MBH において長日刺激によって発現が促される遺伝子をディファレンシャル解析によって単離した¹⁾。この遺伝子は非活性型の甲状腺ホルモン、サイロキシン（ T_4 ）を脳内で局所的に活性型のトリヨードサイロニン（ T_3 ）へ変換する酵素（2型脱ヨウ素酵素 : type 2 deiodinase : Dio2）をコードしていた。この酵素の発現により、長日になると MBH において T_3 濃度が上昇した。また、短日条件下において T_3 の脳室内投与によって精巣の発達が促され、長日条件下において酵素の阻害剤投与によって精巣発達が抑制されたことから、このホルモン転換が季節を読み取るために重要であることが明らかとなっ

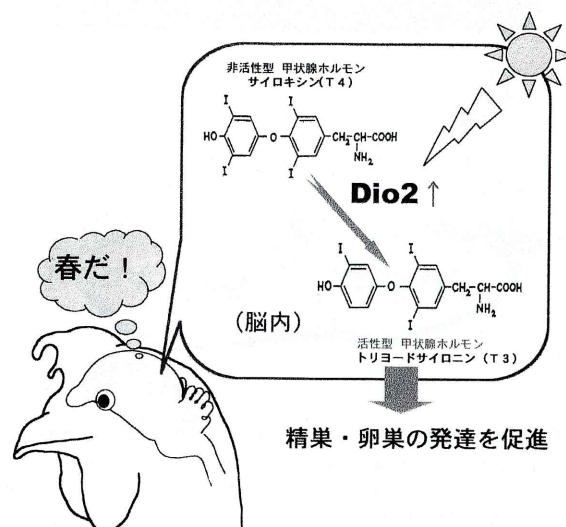


図1. 鳥類の光周性の制御機構

た(図1)¹⁾。

脊椎動物の生殖腺は視床下部-下垂体-性腺軸によって制御されており、生殖腺の発達には視床下部から放出される性腺刺激ホルモン放出ホルモン(GnRH)の分泌制御が重要である。甲状腺ホルモンは脳の発達や可塑性に関与することが知られているが、最近日長の変化によって正中隆起におけるGnRHニューロンの終末とそれを取りまくグリア細胞の相互作用が変化することを発見しており、この形態変化がGnRH分泌の季節性を制御している可能性が唆されている²⁾。

哺乳類の光周性の制御機構

哺乳類の光周性の制御には松果体から夜間放出されるメラトニンと呼ばれるホルモンが重要であるが、哺乳類においても甲状腺除去によって光周反応が阻害されることから、甲状腺ホルモンが光周性の制御に何らかのレベルで関わっていることは知られていた。哺乳類においてはマウスやラットが一般的に実験動物として使われるが、これら

の動物はヒトと同様、一年中繁殖する周年繁殖動物であり、光周性の実験には適していない。したがって哺乳類の光周性の実験にはハムスターが使われてきた。我々は最近ハムスターにおいてもDio2の発現が日長の影響を受けることを明らかにしており(図2)³⁾、哺乳類においても鳥類と同様なメカニズムによって日長に反応している可能性が考えられた。

おわりに

我々の最近の研究から脳内における局所的な甲状腺ホルモンの活性化が脊椎動物の光周性の制御において重要なステップを担っていることがわかってきたが、「生物がどのように日長を測定しているのか?」という光周性の本質や、「なぜハムスターは長日繁殖で、ヒツジやヤギは短日繁殖なのか?」という基本的な疑問は明らかにされていない。今後、これまでに得られた成果をもとに、それらの疑問を解決していきたい。

*本研究は生研センター基礎研究推進事業にサポートされています。

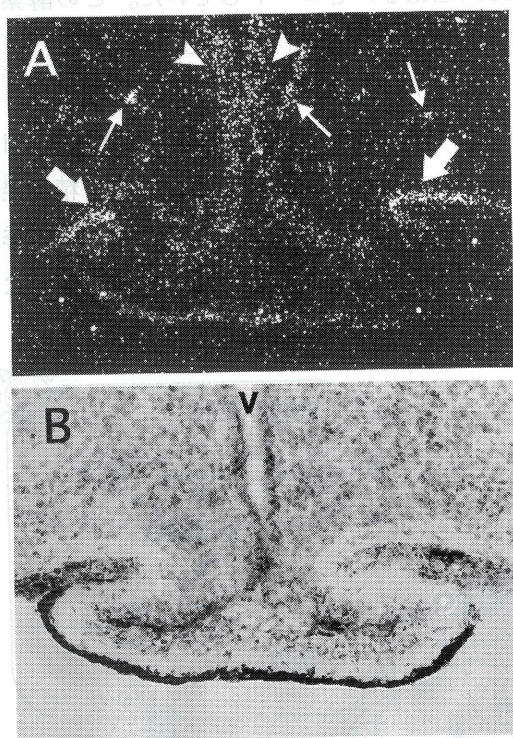


図2. ハムスターの視床下部におけるDio2遺伝子の発現
A. ³³Pでラベルしたオリゴヌクレオチドプローブを用いたin situハイブリダイゼーションの結果。感光乳剤を用いて検出し、暗視野で観察した。
B. 連続切片をNissl染色し、明視野で観察した。Dio2の発現は正中隆起、弓状核、脳室上衣細胞に観察された。

- 1) Yoshimura, T., Yasuo, S., Watanabe, M., Iigo, M., Yamamura, T., Hirunagi, K., Ebihara, S. Light-induced hormone conversion of T₄ to T₃ regulates photoperiodic response of gonads in birds. *Nature* 426, 178-181, 2003
- 2) Yamamura, T., Hirunagi, K., Ebihara, S., Yoshimura, T. Seasonal morphological changes in the neuro-glial interaction between gonadotropin-releasing hormone nerve terminals and glial endfeet in Japanese quail. *Endocrinology* (in press)
- 3) Watanabe, M., Yasuo, S., Watanabe, T., Yamamura, T., Nakao, N., Ebihara, S., Yoshimura, T. Photoperiodic regulation of type 2 deiodinase gene in Djungarian hamster: Possible homologies between avian and mammalian photoperiodic regulation of reproduction. *Endocrinology* 145, 1546-1549, 2004

21世紀 COE 一同位体が拓く未来へ参画

名古屋大学アイソトープ総合センター

西澤 邦 秀

平成15年度の21世紀COEに、名古屋大学工学研究科原子核工学専攻の山本一良教授をCOE拠点リーダーとして、学際、複合、新領域に申請された「同位体が拓く未来一同位体科学の基盤から応用まで」が、採択されました。176申請課題から採択された25課題の一つです。本COEには、リーダーの山本一良教授よりお誘い頂きアイソトープ総合センターから西澤邦秀と柴田理尋の2名が参加させて頂いています。本稿では、本COEの全体計画の概要と当センターの西澤が担当している部分について紹介いたします。

概要

本COE構成メンバーの所属は、工学研究科原子核工学専攻、同結晶材料工学専攻、同応用化学専攻、同エネルギー理工学専攻、同量子工学専攻、環境量子リサイクル研究センター、理工科学総合研究センター、年代測定総合研究センター、アイソトープ総合センターの名古屋大学内の9部局等から成っています。

山本一良教授は、拠点形成の目的と必要性を以下のように述べています。「同位体は、従来から様々な分野で利用されてきたが、その利用手法の研究開発が各分野で個別に行われていること、同位体が非常に高価であること、同位体を区別して測定することが必ずしも容易ではないことなどが原因となり、同位体の科学・技術が爆発的に展開するに至っていない。本拠点では、同位体関連研究に携わってきた広範な分野の研究者が結集・連携し、基盤研究分野（同位体分離・創製、同位体計測、同位体材料）から融合展開分野（環境・生命、文理情報）にわたる研究・教育を総合的かつ有機的に行うことにより、同位体科学の基盤を飛

躍的に発展させるとともに、文理融合分野等への同位体科学の新たな展開をはかる。」

本COEは18名の事業担当推進者が連携して上記の研究に重点的に取り組むことになっています。初年度である平成15年度の予算は、総額で117,000,000円でした。西澤は、融合展開分野に属し、「生体中における同位体の挙動の研究」を担当しています。主な内容は、人体内の放射性ヨウ素の定量測定です。平成15年度の研究チームの構成は、西澤以外に、佐瀬卓也（助手）と、大学院博士課程の学生4名、修士課程の学生3名、研究生1名の、計10名でした。

放射性ヨウ素は、研究、教育、産業、医療で幅広くに用いられています。医療目的では、患者さんの体へ意図的に放射性ヨウ素が投与されます。それ以外の目的で使用される放射性ヨウ素が人体で検出されるのは、事故等によって意図せずに体内摂取される場合です。

現在、放射性ヨウ素のうち ^{123}I 、 ^{125}I 、 ^{131}I の3種類が、日常的に使用されています。3核種ともに核医学において試薬として使用されています。 ^{123}I は、インビボ（体外）の診断用検査試薬として、患者さんへ4～7MBq程度投与され、 ^{131}I は甲状腺がん治療薬として、患者さんへ～300MBq程度が投与されます。 ^{125}I はインビトロ（試験管内）検査試薬として使用されています。加えて ^{125}I はライフサイエンス研究においてトレーサーとしても使用されています。いずれの場合も取り扱いを誤ると、放射性ヨウ素は、医療関係者や患者の家族等の体内汚染を生じ、結果として不必要な被曝を生じさせます。これとは別に、 ^{131}I は、原子力施設における事故時に大量に環境中へ放出

され、一般公衆の体内汚染を引き起こします。

万一汚染された場合を考えてみると、汚染された当人にとってみれば、被曝線量が過大評価されても、過小評価されても、安心できません。被曝線量をできるだけ的確に評価するためには、正確な測定技術が必要となります。ところで、人体内のヨウ素の大部分は、甲状腺に集積します。従って、体内汚染の有無の判断のための測定は、甲状腺に蓄積した放射性ヨウ素を定量することになります。体外から汚染を検出することが出来れば、被験者の負担を少なくすることができます。幸いなことに、甲状腺は首の前面の表面近くに位置するので、 ^{123}I 、 ^{125}I 、 ^{131}I は半減期、放出放射線、放射線エネルギーが異なりますが、いずれも、体外から検出することができます。しかしながら、甲状腺の大きさ（重量）、首の太さ（直径）、甲状腺と首の皮膚表面との距離（甲状腺前面組織厚）等の個人ファクタは被験者ごとに異なります。

甲状腺測定システムには、1. 感度が高いこと、2. 誤差が小さいこと、3. 検出下限が低いこと、が求められます。これらに影響を及ぼす因子としては、被験者の個人ファクタと、測定系に関わる要因とがあります。一般的に、個人ファクタに起因する誤差を小さくしようとすると、検出感度が低くなり、検出下限が大きくなります。したがって、個人ファクタの影響と誤差は小さいが、感度は高い測定法が望ましいことになります。私たちのグループでは、イメージングプレート（IP）を用いて、これを実現しようとしています。今回

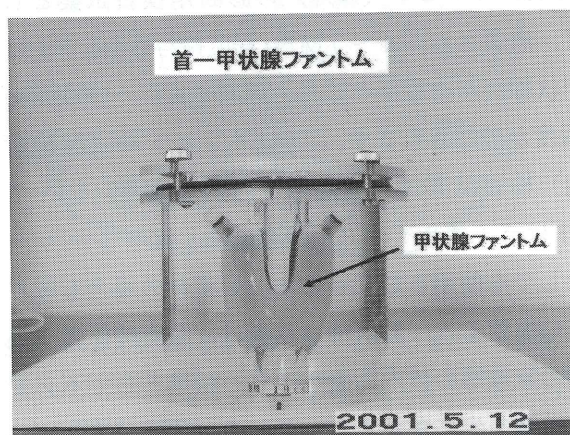


図1. 甲状腺-首ファントム

は、 ^{131}I に対してこれまでに得られている成果を紹介します。

個人ファクタの影響を評価するために直接人体へ ^{131}I を投与することは許されないで、人体を模擬する図1のような甲状腺-首ファントムを作成して使用しました。 ^{131}I を充填したファントムにIPを装着して図2のような ^{131}I 甲状腺画像を取得することができました。この画像は、甲状腺特有の形状を示しているので、甲状腺に ^{131}I が蓄積していることを視覚的に認識できることがわかります。ROI は画像解析のための関心領域（Region of Interest）を示しています。図3のように画像解析によって得られた計数値から放射能を求める、PSL 値-放射能換算計数及び検出限界は、首直径が標準的な日本人成人の10~14cmの範囲では、誤差10%以内で一定の値を示しています。IPを用いる測定法は首の太さの影響を受けにくい方法であることが判ります。同様の結果が、甲状腺容積と、組織厚についても得られています。このように、IPを用いる測定法は個人差の影響を受けにくい方法であることが判ってきています。

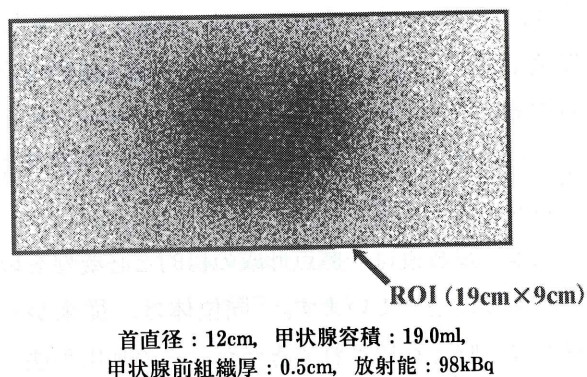


図2. ^{131}I 甲状腺画像とROIの例

図4の写真は、交通事故で鞭打ち症になった患者に使われる、頸椎固定用の道具にIPの入っている袋を取り付けて、被験者の首に固定した状態を示しています。実際の測定はこのような状態で行われます。被験者は、測定器の前に座っていたり、ベッドの上で寝ている必要はなく、測定中も自由に歩き回ったり、本を読んだりすることができますので、この方法は被験者の負担が少ない方法

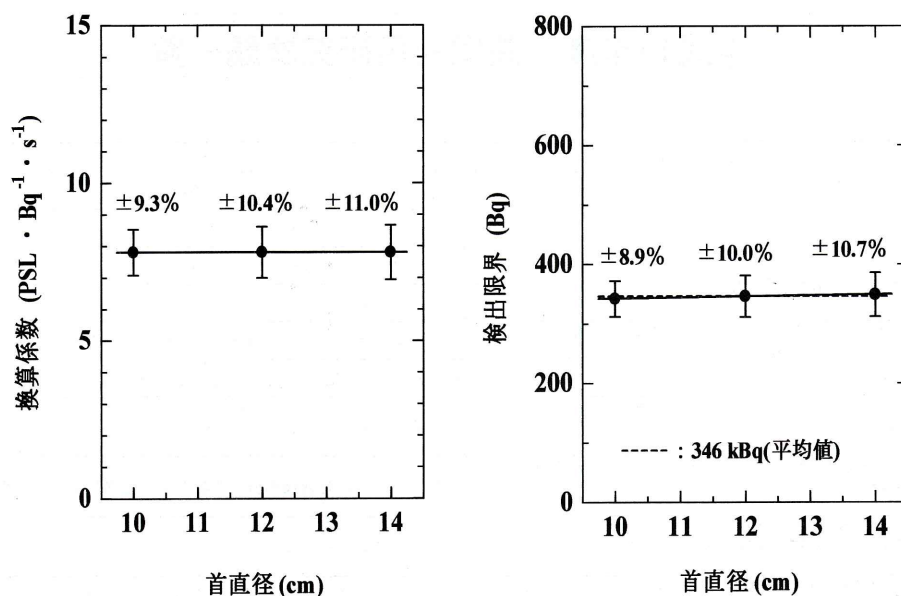


図3. 首直径と換算係数および検出限界との関係



図4. 測定の想定状況

です。

以上のように ^{131}I の測定に関しては、模擬実験によって基本的な特性を明らかにすることができたので、今後はより微量な放射能まで検出できるように感度を向上させることと、実用化する上で幾つかの問題点を解決することが課題です。また次の段階として、 ^{123}I を用いる核医学診断における患者被曝線量を低減させるために超高感度撮像法を開発することを検討し始めています。

平成16年度 共同利用研究課題一覧

A. 本館

学 部	所 属	研 究 課 題	No.
理学研究科	理学研究科 物質理学専攻 生物化学研究室	I-125を用いたタンパク質標識実験	1
		C-14, S-35, H-3を用いたトレーサー実験	2
		オルガネラの生合成研究(特にミトコンドリア、クロロプラスト等)	3
物質科学国際研究センター	物質科学国際研究センター	I-125を用いたタンパク質標識実験及び標識タンパク質を用いたトレーサ実験	4
		細胞標識によるタンパク質挙動の解析	5
		神経細胞表面細胞接着分子の総合蛋白質の解析	6
		人工膜へのNa-22の取り込み実験	7
医学研究科	医学研究科 機能構築医学専攻 病態外科学講座 病態制御外科学	ホルモン産生副腎腫瘍の分子生物学的手法を用いた病因解析	8
	医学研究科 機能構築医学専攻 運動・形態外科学講座 整形外科科学	骨芽細胞に対するホルモン・サイトカインの影響	9
	医学系研究科 健康社会医学専攻 健康増進医学講座 健康スポーツ医学	H-3, C-14の標識グルコースによる糖輸送能の測定	10
		H-3, C-14の特異的ペプチドを用いたタンパク質リン酸化の測定	11
	医学部 保健学科 放射線技術科学専攻 基礎放射線技術学	各種放射能(線)測定器の精度評価実験	12
		R I 貯留槽の水モニタの高精度化と校正方法の開発	13
		低レベル放射能の測定	14
工学研究科	工学研究科 化学・生物工学専攻 生物機能工学分野 バイオテクノロジー講座 遺伝子工学研究グループ	C-14とP-32を用いた糖転移酵素遺伝子群の微生物からのクローニング及びその活性測定	15
		P-32を用いたクロマチン構造変化の解析	16
		P-32を用いたクロマチン免沈で染色体に結合するタンパクを検出	17
		S-35を用いたクロマチン・モデリング因子の in vitro translation	18
	工学研究科 原子核工学専攻 エネルギー環境工学講座	環境中のH-3の測定	19
	工学研究科 マテリアル理工学専攻 量子エネルギー工学分野 量子エネルギーシステム工学講座 量子エネルギー核理工学	β , γ 検出器特性評価	20
	工学研究科 結晶材料工学専攻 電子物性工学講座 磁気物性機能研究グループ	Na-22の β +粒子(陽電子)が物質内の電子とともに消滅する際に放出する γ 線のエネルギー解析を行う。	21
	工学研究科 エネルギー理工学専攻 エネルギー材料デバイス工学講座 エネルギー材料物性工学研究グループ	プラズマ対向壁表面のH-3分布測定	22
		イメージングプレート測定値校正のための低中エネルギー β 線源作製と測定	23
		γ 線に対するイメージングプレートの計数特性調査	24
生命農学研究科	生命農学研究科 生物圏資源学専攻 生物圏動態論講座	スunksにおける甲状腺ホルモン代謝調節の生物学的特性	25
	生命農学研究科 生物機構・機能科学専攻 バイオダイナミクス講座 生物相関進化学	P-32およびH-3標識化合物を用いた植物病原菌の病原性機構の解析	26
	生命農学研究科 生物機構・機能科学専攻 資源生物機能学講座 植物病理学	P-32による植物の生体防御機構の解析	27
	生命農学研究科 応用分子生命科学専攻 バイオモデリング講座 神経内分泌統御学研究分野	ストレス及び性ステロイドホルモンなどによる生殖機能の調節機序を目的としたI-125あるいはH-3標識ホルモンを用いたRIA	28
	生命農学研究科 応用分子生命科学専攻 バイオモデリング講座 動物行動統御学	P-32, P-33による時計遺伝子の発現調節	29
		P-32, P-33による光周性の分子機構の解明	30
	生命農学研究科 応用分子生命科学専攻 生命機能化学講座 生理活性物質化学	H-3ラベルペプチドリガンドを用いたPSK受容体バインディングアッセイ	31
		S-35PAPSを用いたチロシン硫酸化酵素反応実験	32
		P-32ATPを用いたタンパク質リン酸化実験	33
		I-125ラベルPSKペプチドを用いた植物PSK受容体の光親和性標識による検出	34
	生命農学研究科 応用分子生命科学専攻 応用遺伝・生理学講座 動物機能学	I-125, P-32, S-35による鳥類ホルモン遺伝子の発現調節	35
	生命農学研究科 生物機構・機能科学専攻 生物機能分化学講座 動物比較情報学	P-33, C-14を用いた魚類における時計遺伝子の発現動態	36
		H-3, I-125を用いた魚類の松果体及び網膜中のメラトニンの日周リズム	37

	生命農学研究科 応用分子生命科学専攻 応用遺伝・生理学講座 動物生殖学	I-125あるいはH-3標識ホルモンを用いた性腺刺激ホルモン測定・栄養・ストレスなどの環境因子による生殖機能の調節機序の解明	38
	生命農学研究科 生命技術科学専攻 生物生産技術科学講座 動物生産第1	鳥類および哺乳類におけるホルモン濃度の測定	39
環境学研究科	環境学研究科 地球環境科学専攻 地球化学分野	中性子放射化による地球化学試料の多元素分析・地圏環境評価の研究	40
	環境学研究科 地球環境科学専攻 放射線・生命環境科学分野（協力講座）	両生類胚の初期発生機構の解析	41
	環境学研究科 地球環境科学専攻 放射線・生命環境科学分野	I-125汚染甲状腺のin vivoモニタリングの最適化	42
		輝尽性蛍光体による放射能定量測定法の開発	43
		イメージングプレートを用いる甲状腺I-131定量法の開発	44
		非電離放射線が個人線量計等へ及ぼす影響	45
	環境学研究科 地球環境科学専攻 大気水圏科学系地球環境変動論講座	海洋堆積物・沈降粒子の γ 線スペクトルの測定による海洋物質循環の研究	46
地球水循環研究センター	地球水循環研究センター 広域水循環変動研究部門	海洋植物プランクトンの基礎生産力（C-14取込速度）の測定	47
環境医学研究所	環境医学研究所 分子・細胞適応部門 内分泌・代謝分野	分子生物学的手法を用いたストレス応答の研究	48
	環境医学研究所 分子・細胞適応部門 発生・遺伝分野	SRC-1ノックアウトマウスにおける甲状腺ホルモン応答性	49
		ZAKI-4遺伝子の機能解析	50
		サイログロブリン異常による先天性甲状腺腫の発症機構	51
	環境医学研究所 器官系機能調節部門 神経性調節分野	P-32のDNA標識を用いた炎症メディエーター受容体のトレーサー実験	52
		S-35のRNA標識を用いた炎症メディエーター受容体のin situ hybridization	53
		H-3のプロスタグランジンE2を用いた炎症メディエーター受容体の発現実験	54
	環境医学研究所 器官系機能調節部門 循環器分野	心筋カリウムチャネル遺伝子発現に対する甲状腺ホルモンの作用	55
生物機能開発利用 研究センター	生物機能開発利用研究センター 植物機能統御部門 内環境応答統御	P-32によるDNA/蛋白複合体（セントロメア領域）の解析	56
		P-32によるセントロメア関連遺伝子のスクリーニング	57
		P-32によるメタカ性分化関連遺伝子のクローニング	58
エトピア科学研究機構	エトピア科学研究機構 環境システム・リサイクル科学研究部門 環境エコロジーシステム	C-14標識化合物の土壌中での分解試験	59
		標識化合物の微生物菌体中への取り込み試験	60
	エトピア科学研究機構 環境システム・リサイクル科学研究部門 環境エコロジーシステム	C-14とP-32を用いた糖転移酵素遺伝子群の微生物からのクローニング及びその活性測定	61
		P-32を用いた脱窒菌の脱窒遺伝子群の解析	62
		H-3を用いた細胞増殖速度の測定	63
アイソトープ総合センター	放射線科学部門	甲状腺I-131定量測定法の開発	64
		I-125汚染甲状腺のin vivoモニタリング法の最適化	65
		輝尽性蛍光体による放射能定量測定法の開発	66
		イメージングプレートを用いるI-123甲状腺のモニタリング法の開発	67
		高周波電磁波が個人線量計に及ぼす影響	68
		トリチウムの表面汚染測定に関する研究	69
		β , γ 検出器特性評価	70
	生命科学部門	両生類胚の初期発生機構の解析	71
	放射線安全管理室	各種放射線測定器の校正実験	72
		放射線防護に関する研究	73

B. 分館

学 部	所 属	研 究 課 題	No.
医学部・医学研究科	分子総合医学専攻 生物化学講座 分子生物学	I-125ラベルした成長因子ミッドカインの細胞内への取り込み。さらに半減期を調べた。	74
	分子総合医学専攻 生物化学講座 分子細胞免疫学・免疫細胞動態学	T細胞をCD8+CD122+細胞と共培養し、その増殖をH-3チミジン取込み試験で測定することにより、CD8+CD122+制御性T細胞のT細胞制御機構を解明する。	75
		変異を導入したRETタンパクを純化し、そのチロシンキナーゼ活性をキナーゼアッセイによって測定することにより、RETチロシンキナーゼの活性化機構を明らかにする。(P-32)	76
	分子総合医学専攻 微生物・免疫学講座 ウイルス学	ヘルペスウイルスの病原性発現機構を解明するために、ウイルス因子をS-35, P-32, C-14で標識し、その挙動を解析する。	77
	分子総合医学専攻 病態内科学講座 機能調節内科学	肺ガンにおけるがん抑制遺伝子KLF6の発現量についてKLF6及び関連とすると考えられる遺伝子のNorthern Blot(P-32)	78
	分子総合医学専攻 病態内科学講座 代謝病態内科学	単離腺島からのインスリン分泌に関する研究、分泌シグナルに関する研究 サイトカインなど生理活性物質のインスリン分泌刺激、抑制に関する研究 (I-125, P-32)	79
		脂肪細胞の分化に関する研究 脂肪細胞の分化、及び脂肪細胞で合成されるサイトカインの調節機構について(P-32)	80
		摂食に関する脳内シグナルの研究 in situ hybridを用いた摂食関連神経伝達物質のネットワークの解明(S-35)	81
		糖尿病性神経障害の研究 糖尿病性神経障害の発症機序、抑止の研究(P-32)	82
	分子総合医学専攻 病態内科学講座 免疫応答内科学	腎疾患におけるchemokineの関与 代表的な腎虚血再灌流モデル等を用いて、腎疾患の病態を修飾するchemokine(MCP-1, MIP-2, RANTES)につきP-32を用いてNorthern BlotやRPAにて解析する。更には転写因子活性についてもEMSAにてBindingを評価する。	83
	細胞情報医学専攻 細胞科学講座 細胞情報薬理学 薬理	Rho-kinaseなどのリン酸化酵素のシグナル経路を[gammaP-32]ATPを用いて解析する	84
		低分子量GTP結合蛋白質RhoファミリーのGTPおよびGDP結合量を、[S-35]GTPgammaSおよび[H-3]GDPを用いて測定する	85
		[gammaP-32]CTPを用いて遺伝子改変マウスのノザン、及びサザンブロット解析を行う。	86
	細胞情報医学専攻 臨床薬物情報講座 医療薬学	神経精神疾患の病態および治療薬の作用機序を調べるため、 神経精神疾患治療薬や依存性薬物を単回/連続投与した あるいはストレスを負荷したマウス・ラットの脳内生理活性物質の 含量・活性 および受容体機能の変化をH-3, S-35, C-14, I-129, P-32の 核種を用いて調べる。	87
		精神疾患の免疫系・内分泌系の変化と病態像の変化との関係を 調べるため、健康人および精神疾患患者の血液中ステロイドおよび サイトカイン含量をH-3, S-35, C-14, I-129, P-32をもちいて測定する。	88
		[gammaP-32]ATP使用し、脳内protein kinase Aの活性を測定。	89
	機能構築医学専攻 病理病態学 腫瘍病理学	GZF1の蛋白結合配列の同定 研究内容：P-32dCTPにてラベルしたDNA断片を用いて、GZF1蛋白が結合するDNA配列を決定する。	90
		BMZF3の蛋白結合配列の同定 研究内容：P-32-dCTPにてラベルしたDNA断片を用いて、BMZF3蛋白が結合するDNA配列を決定する。	91
		GZF1結合蛋白のクローニング 研究内容：GZF1蛋白に結合する蛋白をtwo-hybrid法にて同定し、そのうち未知の遺伝子について、P-32dCTPを用いた遺伝子ライブラリーのスクリーニングにて塩基配列を決定する。	92
		AKT結合蛋白の機能解析 研究内容：AKT結合蛋白のリン酸化を規定する因子を、P-32-dCTPを用いたkinase assayにより解析する。	93
	附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 腫瘍病態統御部門 分子腫瘍学	肺癌等のヒト固形腫瘍の分子病因解析 (目的) 肺癌を始めとするヒト固形腫瘍の発症と進展の分子機序解明とそのトランスレクションのため (内容) 各種のがん抑制遺伝子やがん遺伝子などのがん関連遺伝子及びその遺伝子産物の変異や発現の異常の解析 (使用核種) P-32, P-33, S-35	94
		肺癌の発生と進展の分子機構の解明 (目的) 遺伝子の発現や変異の解析のために分子生物学的実験を行う (使用核種) P-32, P-33, S-35, H-3	95
		DNA複製研究、DNAへのヌクレオチド取り込み定量 (使用核種) P-32, H-3	96
	附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター 生体防御研究部門	マスト細胞におけるGATAの役割、転写因子の研究です。 EMSAにgammaP-32を使用します。	97

平成16年度 センター利用者一覧

A. 本館 (200名)

理学部・理学研究科 (9名)

物質理学専攻 生物化学研究室 (4名)

西川 周一, 辻 正博, 佐藤 健大, 山本 林

生命理学専攻 機能調節学講座 超分子システム学グループ (2名)

武内 恒成, 房岡 恵理

生命理学専攻 超分子機能学講座 感覚運動研究グループ (1名)

薬師 寿治

物理学科実習 (2名)

[生命理学専攻 超分子機能学講座 感覚運動研究グループ]

星野 香

[素粒子宇宙物理学専攻 基本粒子研究室]

河田 二郎

医学部・医学研究科 (12名)

機能構築医学専攻 病態外科学講座 病態制御外科学 [環境医学 内分泌・代謝] (1名)

小林 宏暢

機能構築医学専攻 病態外科学講座 内分泌・移植外科学 [環境医学 内分泌・代謝] (1名)

日比 八束

機能構築医学専攻 形態外科学 整形外科 [環境医学 内分泌・代謝] (1名)

山本 拓也

細胞情報医学専攻 分子・細胞適応学 (協力) 講座 [環境医学 内分泌・代謝] (2名)

芦 秀麗, Mirza Rusella

細胞情報医学専攻 分子・細胞適応学 (協力) 講座 [環境医学 発生・遺伝分野] (2名)

竹藤 聖子, 孫 暁陽

健康社会医学専攻 健康増進医学 (協力) 講座 [保体センター] (1名)

久保田正和

保健学科 放射線技術科学専攻 基礎放射線技術学 (1名)

緒方 良至

医学科実習 (3名)

安達 興一, 曾原 康巖, 濱田 信義

工学部・工学研究科 (35名)

化学・生物工学専攻 生物機能工学分野

バイオテクノロジー講座 遺伝子工学研究グループ (24名)

西島 謙一, 堂田 丈明, 稲吉 勇仁, 片岡 洋平,

高橋 幹雄, 伊藤 俊成, 河野 健, 河辺 佳典,

堀田 秋津, 寺嶋 優臣, 安藤 宗稔, 金岡 英徳,

岡島 宏美, 中 努, 佐藤 好隆, 山本 純子,

伊藤歌奈子, 斎藤 嘉一, 仲神 友貴, 西宮 大祐,

小松 弘幸, 木学 量子, 京極 健司,

MD. Mahboob Morshed

マテリアル理工学専攻 材料工学分野

情報電子材料工学講座 磁気物性応用学研究グループ (4名)

松井 正顕, 浅野 秀文, 大森 和彦, 清水 利文

マテリアル理工学専攻 量子エネルギー工学分野

エネルギー安全工学講座

エネルギー環境安全工学研究グループ (1名)

飯田 孝夫

マテリアル理工学専攻 量子エネルギー工学分野

量子エネルギーシステム工学講座

量子エネルギー核物理工学研究グループ (3名)

末松 倫, 宮崎 格, 林 裕晃

マテリアル理工学専攻 量子エネルギー工学分野

エネルギー材料工学講座

エネルギー材料物理工学研究室 (2名)

田辺 哲朗, 杉山 一慶

社会基盤工学専攻 社会基盤工学分野

エコトピア科学研究機構

環境システム・リサイクル科学研究部門 (1名)

馬場 大輔

農学部・生命農学研究科 (93名)

共通 アイソトープ実験室 (2名)

内藤 寿朗, 杉本 和弘

生物圏資源学専攻 生物圏動態論講座

[環医研 発生・遺伝] (1名)

鈴木大輔

生命技術科学専攻 生物生産技術科学講座

植物生産科学第1 生物相関進化化学 (6名)

柘植 尚志, 八田理恵子, 播本 佳明, 新城 明久,

倉橋 真, 飯田祐一郎

生物機構・機能科学専攻 生物機能分化学講座

動物比較情報学 動物機能グループ (1名)

後藤 麻木

生物機構・機能科学専攻 資源生物機能学講座
植物病理学 (11名)

川北 一人, 吉岡 博文, 小林光智衣, 出口 友美,
刀祢千代里, 山溝 千尋, 岡 美有紀, 齋藤 修平,
石濱 伸明, 水野 貴仁, 村上 友哉

応用分子生命科学専攻 バイオモデリング講座
動物行動統御学 (12名)

吉村 崇, 安尾しのぶ, 渡辺 剛史, 山村 崇,
小林 淳哉, 高木 健, 冨田 滋, 中村 孝博,
多田 歩未, 中尾 暢宏, 竹内 基貴, 深澤 洋平

資源生物環境学科 動物行動統御学 (3名)

安楽 翼, 小嶋麻友美, 安井 仁美

応用分子生命科学専攻 生命機能化学講座
生理活性物質化学 (8名)

松林 嘉克, 佐藤 勲, 大西 裕介, 篠原 秀文,
山本 珠代, 木戸 恒, 岡田 正弘, 小川 真理

応用生物科学科 生理活性物質化学 (2名)

天野ゆかり, 宮尾 悠

応用分子生命科学専攻 応用遺伝・生理学講座
動物機能学 (9名)

斎藤 昇, 塚田 光, 高木 惣一,
Upi Chairun Nisa, 田原 謙一, 伊藤 俊樹,
水島 秀成, 大藤 利通, 河 燕ジュ

生命技術科学専攻 生物生産技術科学講座
動物生産科学第一分野 (1名)

喜多 一美

生命技術科学 生物生産技術科学 (1名)

大木 麻衣

応用分子生命科学専攻 応用遺伝・生理学講座
動物生殖学 (11名)

前多敬一郎, 上野山賀久, 丹羽 洋子,
Somchai Sajapitak, 須寄 直樹, 高瀬 健志
平田 淳也, 宮野 耕一, 岩田 衣世, 黒谷 達,
Pheng Vutha

応用分子生命科学専攻 バイオモデリング講座
神経内分泌統御学研究分野 動物生殖学 (5名)

束村 博子, 山田 俊児, 榊原 基嗣, 福井 康幸,
西 勝洋,

資源生物環境学科 神経内分泌統御学 (6名)

岩田 良香, 川原 万季, 坂中麻里子, 佐藤 弘明,
杉浦 瞳, 長谷川浩一

生物圏資源学専攻 生物圏動態論講座
[環医研発生・遺伝] (1名)

鈴木 大輔

生命技術科学専攻 生物生産技術科学講座
動物生産第2 [環医研 発生・遺伝] (1名)

岡部絵里奈

応用生物科学実習 (6名)

[応用分子生命科学専攻 応用生命科学講座]

小田 裕昭, 青木 直人

[生物機構・機能科学専攻 分子生物学講座]

中野 秀雄

[生物機構・機能科学専攻 分子細胞機構学講座]

加藤 雅士

[生物機構・機能科学専攻 遺伝子制御講座]

伊東 達雄

[生物機構・機能科学 分子細胞機構学講座
植物分子生理学研究室]

辻本 良真

資源生物環境科 (農学系) 実習 (6名)

[生物機構・機能科学専攻 生物機能分化学講座]

宮田 正, 田中 利治

[生物機構・機能科学専攻 生物機能分化学講座
資源昆虫学]

柳沼 利信, 新美 輝幸, 加藤 泰弘, 光増可奈子

情報科学研究科 (1名)

複雑系科学専攻 多自由度システム情報論講座 (1名)

森 昌弘

人間情報学研究科 (1名)

物質・生命情報学専攻 情報機構論講座 (1名)

本村 扇仁

環境学研究科・地球水循環研究センター (17名)

地球環境科学専攻 地球化学分野 (5名)

田中 剛, 南 雅代, 柴田信之介, 林 隆正,
若木 重行

地球環境科学専攻 放射線・生命環境科学分野
(協力講座) (9名)

西澤 邦秀, 竹島 一仁, 柴田 理尋, 佐瀬 卓也,
出路 静彦, 伊藤 茂樹, 石田 美葵, 李 小娟,
榊原 健

地球環境科学専攻 大気水圏科学系
地球環境変動論講座 (1名)

増澤 敏行

地球環境科学専攻 地球環境変動論分野 (1名)

後藤 和也

地水センター 広域水循環変動研究
海洋気候生物学研究室 (1名)

藤木 徹一

環境医学研究所 (15名)

分子・細胞適応部門 内分泌・代謝分野 (6名)

神部 福司, 末田 香里, 大森 幸子, 服部 公彦,
河野 節子, 曹 霞

分子・細胞適応部門 発生・遺伝分野 (4名)

村田 善晴, 加納 安彦, 村瀬 孝司, 早坂 静

器官系機能調節部門 神経性調節分野 (3名)

水村 和枝, 小崎 康子, 片野坂公明

器官系機能調節部門 循環器分野 (2名)

李 鍾國, 史 格茜

生物機能開発利用研究センター (1名)

開発・展開部門 純系動物器官機能利用分野 (1名)

依田 欣哉

総合保健体育科学センター 保健科学部 (2名)

押田 芳治, 秦 柏林

エコトピア科学研究機構 (3名)

環境システム・リサイクル科学研究部門

環境エコロジーシステム (2名)

片山 新太, 井上 康

環境システム・リサイクル科学研究部門

環境エコロジーシステム [工・遺伝子工学] (1名)

三宅 克英

物質科学国際研究センター (1名)

吉久 徹

アイソドープ総合センター (10名)

放射線科学部門 (3名)

西澤 邦秀, 柴田 理尋, 佐瀬 卓也

生命科学部門 (1名)

竹島 一仁

放射線安全管理室 (6名)

小島 久, 近藤 真理, 飯尾 衣里, 小島 美紀,
西尾 浩文, 飯沼 雅弘

B. 分館 (239名)

医学部 (239名)

医学科・医学系研究科 (239名)

分子総合医学専攻 生物化学講座

分子生物学／生体高分子学 [生化1] (12名)

門松 健治, 村松 壽子, 市原 啓子, 武井 佳史,
劉 大革, ソウ 鵬, 陳 森, 張 皓チン,
陳 嵐, 村瀬 篤史, 坂元 一真, 山田 章人

分子総合医学専攻 生物化学講座

分子細胞化学 [生化2] (14名)

古川 鋼一, 浦野 健, 古川 圭子, 岩村 康一,
徳田 典代, 奥田 徹哉, 章 青, 李 香玉,
仲村 織絵, 原 和志, 林 高則, 愛新覚羅維,
坂下 暁介, 朱 迎松

分子総合医学専攻 微生物・免疫学講座

分子病原細菌学 [細菌] (5名)

長谷川忠男, 鳥居 啓三, 山田 景子, 武野 彰,
岡本 陽

分子総合医学専攻 微生物・免疫学講座

分子細胞免疫学／免疫細胞動態学 [免疫] (8名)

鈴木 治彦, 武田湖州恵, 戴 研, 坪井 秀夫,
川本 善之, MUHAMIN RIFAI, 奥野 友介,

ENDHARTI AGUSTINA TRI

分子総合医学専攻 微生物・免疫学講座

ウィルス学 [ウィルス感染] (7名)

川口 寧, 腰塚 哲朗, 松崎 明男, 山本真悠子,
加藤 藍, 加藤 哲久, 大野 剛史

分子総合医学専攻 病態内科学講座

分子細胞内科学 [1内2研・3研] (12名)

木下 朝博, 浅野 治彦, 村手 隆, 小嶋 哲人,
松下 正, 山本 晃士, 安部 明弘, 恵美 宣彦,
村田 誠, 梶口 智弘, 寺倉精太郎, 山本 一仁

分子総合医学専攻 病態内科学講座

器官制御内科学 [1内7研] (2名)

前田 健吾, 竹藤 幹人

分子総合医学専攻 病態内科学講座

病態修復内科学 [1内8研・2内4研・5研・6研] (18名)

楠神 和男, 石黒 和博, 前田 修, 南 正明,
渡辺 修, 藤田 孝義, 片野 義明, 本多 隆,
石黒 裕規, 成瀬 達, 石黒 洋, 馬淵 龍彦,
水野 聡己, 大宮 直木, 白井健之助, 田口 歩,
山田 雅弘, 馬淵 信行

分子総合医学専攻 病態内科学講座

機能調節内科学 [1内6研] (7名)

長谷川好規, 川部 勤, 今泉 和良, 伊藤 源士,
岡本 真和, 小島 克之, 横山 俊彦

分子総合医学専攻 病態内科学講座

代謝病態内科学 [1内5研・3内糖尿病] (28名)

三浦 義孝, 尾崎 信暁, 村瀬 孝司, 長崎 弘,
有馬 寛, 加藤 陽子, 吉田 昌則, 佐藤 郁子,
浅井 真人, 加藤 義郎, 木下 教子, 坂野 僚一,
恒川 新, 林 正幸, 鈴木千津子, 山田 努,
後藤 資実, 田口 晴子, 梅田 大視, 太田貴美子,
中島英太郎, 成瀬 桂子, 加藤 宏一, 秋山 昇,
李 為国, 渡会 敦子, 中江 美佳, 木村 なち

分子総合医学専攻 病態内科学講座
免疫応答内科学〔3内腎臓〕(12名)

丸山 彰一, 佐藤 和一, 加藤佐和子, 坪井 直毅,
河合 華代, 森永 貴理, 小杉 智規,
八尾村多佳朗, 尾崎 武徳, 檀原 敦, 安田 香,
石本 卓嗣

細胞情報医学専攻 細胞科学講座
細胞生物物理学〔生理2〕(5名)

成瀬 恵治, 横山 悠男, 坂口菜朋子, 村上 太郎,
岩田 全広

細胞情報医学専攻 脳神経病態制御学講座
神経内科学〔神経内科〕(2名)

曾根 淳, 足立 弘明

細胞情報医学専攻 頭頸部・感覚器外科学講座
眼科学〔眼〕(1名)

吉田 統彦

細胞情報医学専攻 頭頸部・感覚器外科学講座
顎顔面外科学／咀嚼障害制御学〔口腔外〕(2名)

浜村 和紀, 中島 英行

細胞情報医学専攻 臨床薬物情報学講座
医療薬学〔薬剤〕(10名)

野田 幸裕, 曾 南, 新田 淳美, 宮崎 雅之,
毛利 彰宏, 大谷 晋, 村井 里菜, 丹羽 美苗,
溝口 博之, ヤン 以謹

機能構築医学専攻 病態外科学講座
器官調節外科学〔1外 ツモール〕(5名)

國料 俊男, 笹本 彰紀, 横山 真也, 芥川 篤史,
高 賢樹

機能構築医学専攻 病態外科学講座
器官調節外科学〔1外 血管〕(1名)

坂野比呂志

機能構築医学専攻 病態外科学講座
病態制御外科学〔2外 癌〕(2名)

日比 健志, 小松 義直

機能構築医学専攻 病態外科学講座
病態制御外科学〔2外 肝臓〕(8名)

竹田 伸, 野本 周嗣, 杉本 博行, 阪井 満,
藤井 努, 粕谷 英樹, 加藤 公一, 山田 豪

機能構築医学専攻 病態外科学講座
内分泌・移植外科学〔2外 内分泌〕(1名)

須田 波子

機能構築医学専攻 病態外科学講座
胸部構築外科学〔胸部外科〕(3名)

宇佐美範恭, 竹内 美佳, 福井 高幸

機能構築医学専攻 病態外科学講座
泌尿器科学〔泌尿器〕(1名)

千田 基宏

機能構築医学専攻 生体管理医学講座
麻酔・蘇生医学〔麻酔〕(1名)

杉本 憲治

健康社会医学専攻 発育・加齢医学講座
小児科学〔小児〕(3名)

蒲池 吉朗, 加藤久美子, 田中真己人

健康社会医学専攻 発育・加齢医学講座
産婦人科学／生殖腫瘍制御学〔産婦人〕(12名)

吉川 史隆, 野村 誠二, 板倉 敦夫, 井篁 一彦,
安藤 寿夫, 三井 崇, 伊藤 友美, 梶山 広明,
竹内 幹人, 下村 裕司, 山本 英子, 炭竈 誠二

附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター
腫瘍病態統御部門 分子腫瘍学〔がん細胞研究部門〕(12名)

高橋 隆, 鈴木 元, 柳澤 聖, 前野 健,
永井 英雅, 高見澤潤一, 山田 英貴, 竹内 俊幸,
田中 寿明, 小泉 恵子, 新美 敦子, 坂野 喜子

附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター
腫瘍病態統御部門 腫瘍生物学〔分子病態〕(10名)

浜口 道成, 岩本 隆司, 内藤 裕子, 長谷川仁紀,
田中 美和, 黄 鵬宇, 高橋 映乃,
BISWASMD. HELALUDDIN 石田 喜子,
馬 秀揚

附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター
発生・再生医学部門 分子病理学〔病理2〕(9名)

村雲 芳樹, 市原 正智, 川井 久美,
時々輪真由美, 金 毅, 児玉 良典, 内田真由実,
榎本 篤, 川瀬由加里

附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター
発生・再生医学部門 神経情報薬理学〔薬理〕(16名)

天野 睦紀, 田谷真一郎, 河野 洋治, 金児 貴子,
坪井 大輔, 木村 俊秀, 西村 隆史, 渡辺 崇,
匹田 貴夫, 中山 雅敬, 吉村 武, 則竹 淳,
中村 奈央, 川端紗枝子, 有村奈利子, 黒田 摂子

附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター
先端応用医学部門 生体防御学〔生体防御〕(1名)

増田 章男

保健学科 検査技術科学専攻
病因・病態検査学講座(3名)

長瀬 文彦, 祖父江沙矢加, 萩原 和美
理学部(1名)

篠田 友靖

アイソトープ総合センター分館(5名)

安達 興一, 曾原 康巖, 濱田 信義, 中村 嘉行,
原田 恵子

講習会・学部実習

(平成16年3月～平成16年7月)

A. 本 館

利用者講習会(年次教育)

◇期 日 平成16年4月2日(金)

担当者 竹島 一仁, 佐瀬 卓也, 小島 久

受講者 42名

◇期 日 平成16年4月5日(月)

担当者 竹島 一仁, 佐瀬 卓也, 小島 久

受講者 54名

◇期 日 平成16年4月6日(火)

担当者 西澤 邦秀, 柴田 理尋, 小島 久

受講者 57名

◇期 日 平成16年4月20日(火)

担当者 竹島 一仁, 佐瀬 卓也, 近藤 真理

受講者 17名

◇期 日 平成16年6月9日(水)

担当者 小島 久

受講者 1名

◇期 日 平成16年7月8日(木)

担当者 近藤 真理

受講者 1名

利用者講習会(新人オリエンテーション)

◇期 日 平成16年4月15日(木)

担当者 近藤 真理

受講者 13名

◇期 日 平成16年5月7日(金)

担当者 小島 久

受講者 8名

◇期 日 平成16年6月15日(火)

担当者 近藤 真理

受講者 7名

◇期 日 平成16年7月22日(木)

担当者 小島 久

受講者 1名

R I 取扱講習会

◇講義-1

期 間 平成16年4月7日(水)

担当者 西澤 邦秀, 柴田 理尋

受講者 2名

◇講義-2(英語)

期 間 平成16年5月12日(水)

担当者 西澤 邦秀, 竹島 一仁, 安達 興一

受講者 5名

◇講義-3

期 間 平成16年5月13日(木)

担当者 西澤 邦秀, 安達 興一

受講者 70名

◇講義-4

期 間 平成16年5月14日(金)

担当者 竹島 一仁

受講者 56名

◇講義-5(日本語)

期 間 平成16年7月5日(月)

担当者 竹島 一仁

受講者 50名

◇講義-5(英語)

期 間 平成16年7月5日(月)

担当者 西澤 邦秀

受講者 2名

◇実習-1

期 間 平成16年4月14日(月)

担当者 佐瀬 卓也, 近藤 真理

受講者 2名

◇実習-2

期 間 平成16年5月17日(月)

担当者 佐瀬 卓也, 小島 久, 竹島 一仁

受講者 19名

◇実習－3

期 間 平成16年5月18日(火)

担当者 佐瀬 卓也, 小島 久, 柴田 理尋

受講者 19名

◇実習－4

期 間 平成16年5月19日(水)

担当者 佐瀬 卓也, 小島 久, 竹島 一仁

受講者 18名

◇実習－5

期 間 平成16年5月20日(木)

担当者 佐瀬 卓也, 近藤 真理, 柴田 理尋

受講者 17名

◇実習－6

期 間 平成16年5月21日(金)

担当者 佐瀬 卓也, 近藤 真理, 竹島 一仁

受講者 15名

◇実習－7

期 間 平成16年5月24日(月)

担当者 竹島 一仁, 近藤 真理, 小島 久

受講者 16名

◇実習－8

期 間 平成16年7月6日(火)

担当者 佐瀬 卓也, 近藤 真理, 柴田 理尋

受講者 20名

◇実習－9

期 間 平成16年7月7日(水)

担当者 佐瀬 卓也, 小島 久, 竹島 一仁

受講者 16名

X線取扱講習会

◇第57回

期 間 平成16年6月7日(月)

担当者 柴田 理尋, 西澤 邦秀, 竹島 一仁

受講者 89名

◇第58回

期 間 平成16年6月8日(火)

担当者 柴田 理尋, 西澤 邦秀, 竹島 一仁

受講者 74名

◇第59回

期 間 平成16年7月9日(月)

担当者 柴田 理尋, 竹島 一仁

受講者 76名

◇学部講習(講義)臨時

[理学部物理学科・第3種(X線)認定講習]

期 間 平成16年3月22日(月)

担当者 星野 香, 田原 譲, 村上 緑

受講者 20名

学部実習

◇農学部 応用生物化学科

期 間 平成16年4月13日(火)～22日(木)

担当者 青木 直人, 中野 秀雄, 小田 裕昭,

加藤 雅士, 辻本 良真, 伊東 達雄

受講者 72名

◇理学部 物理学科

期 間 平成16年6月2日(水), 6月3日(木)

担当者 星野 香, 河田 二郎

受講者 24名

講習会名	実施回数	日 数	受講者数
利 用 者 講 習 会	10	10	201
R I 取扱講習会(講義)	6	6	185
(実習)	9	9	142
X 線 取 扱 講 習 会	3	3	239
(学部臨時講習)	1	1	20
学 部 実 習	2	9	96
計	31	38	883

B. 分 館

再教育講習会

◇期 日 平成16年3月2日(火)

担当者 安達 興一, 岩本 隆司, 濱田 信義,
中村 嘉行

受講者 126名

◇期 日 平成16年3月5日(金)

担当者 安達 興一, 岩本 隆司, 濱田 信義,
中村 嘉行

受講者 71名

◇期 日 平成16年3月10日(水)

担当者 安達 興一, 岩本 隆司, 濱田 信義,
中村 嘉行

受講者 54名

◇期 日 平成16年4月6日(火)

担当者 岩本 隆司, 中村 嘉行

受講者 8名

◇期 日 平成16年5月25日(火)

担当者 安達 興一, 中村 嘉行

受講者 1名

分館利用説明会

◇期 日 平成16年4月6日(火)

担当者 岩本 隆司, 濱田 信義

受講者 2名

◇期 日 平成16年5月25日(火)

担当者 安達 興一, 中村 嘉行

受講者 4名

◇期 日 平成16年5月28日(金)

担当者 岩本 隆司, 濱田 信義

受講者 3名

◇期 日 平成16年6月2日(水)

担当者 安達 興一, 中村 嘉行

受講者 2名

◇期 日 平成16年6月14日(月)

担当者 岩本 隆司, 濱田 信義

受講者 4名

◇期 日 平成16年7月14日(水)

担当者 岩本 隆司, 濱田 信義, 中村 嘉行

受講者 17名

グループ責任者講習会

◇期 日 平成16年4月12日(月)

担当者 安達 興一, 濱田 信義, 中村 嘉行

受講者 17名

◇期 日 平成16年4月13日(水)

担当者 安達 興一, 濱田 信義, 中村 嘉行

受講者 15名

◇期 日 平成16年4月26日(月)

担当者 安達 興一, 濱田 信義, 中村 嘉行

受講者 5名

X線新規利用講習会

◇期 日 平成16年6月28日(月)

担当者 中村 嘉行, 小木曾 昇

受講者 5名

◇期 日 平成16年6月29日(火)

担当者 中村 嘉行, 小木曾 昇

受講者 3名

◇期 日 平成16年7月27日(火)

担当者 中村 嘉行, 小木曾 昇

受講者 1名

X線再教育講習会

◇期 日 平成16年7月6日(火)

担当者 中村 嘉行

受講者 8名

◇期 日 平成16年7月7日(水)

担当者 中村 嘉行

受講者 12名

◇期 日 平成16年7月29日(木)

担当者 中村 嘉行

受講者 4名

講習会名	実施回数	日 数	受講者数
再 数 育 講 習 会	5	5	260
分 館 利 用 説 明 会	6	6	32
グ ル ー プ 責 任 者 講 習 会	3	3	37
X線新規利用講習会	3	3	9
X線再教育講習会	3	3	24
計	20	20	362

講習会修了者名簿

R I 講習 [第2種: 見習い期間付き, 講義のみ修了] (195名)

4月12日(月)(2名)

アイソトープ総合センター 飯沼 雅弘, 飯尾 衣里

5月13日(木)(14名)

理学部・理学研究科 笠原 隆史

工学部・工学研究科 鈴木 泰伸, 田中 淳, 浦田 朋晃, 松川 知弘, 伊藤 勇希, 今泉 吉明, 村瀬 泰之,

天田 貴文, 鶴 尋貴, 田中 充, 中川 時児, 藤井 朋之

環境学研究科 大土井晴子

5月14日(金)(18名)

医学部・医学系研究科 田中 恵, 伊藤 志門

工学部・工学研究科 森田 和博, 大嶋 大樹, 青木 研二, 石田 崇昭, 小邑 健二, 山本 智也, 亀山 博史,

太田 豊, 川島 渉, 伊藤 大作, 永田 裕, 坂田 賢治, 別府 賢二, 村上 和也,

山内 友喜, 青柳 忍

5月17日(月)(18名)

理学部・理学研究科 遠藤由里子, 井門 孝治, 宮崎 由之, 福谷 孝介, 関 丘, 金谷 育美, 三宅 歩,
和田ちひろ

医学部・医学系研究科 吉田 修, 上田 竜雅

工学部・工学研究科 大内 真一, 萩原 智則, 荻野 陽介, 今村 一仁, Cielo Charles Bernhard Canja

農学部・生命農学研究科 鈴木 亜矢, 猪狩 誠

年代資料測定研究センター 渡邊 隆広

5月18日(火)(19名)

理学部・理学研究科 伴 紀孝

医学部・医学系研究科 原 和生, 横山 俊彦, 黒田 摂子

工学部・工学研究科 元野 誠, 大北 充吉, 橋谷 一志, 犬飼 学

農学部・生命農学研究科 今村 講平, 大田 幸士, 黒谷 達, 梅村威一郎, 島田 麻子, 山本 優子, 浅野 賢治,
篠崎 祐介

生物機能開発利用研究センター 森中 洋一, 辻 寛之, 中村 郁子

5月19日(水)(18名)

理学部・理学研究科 越山 友美, 鈴木 理子, 橋本 邦男, 原田 佳宗, 丸山 美幸, 岡島 泰久

医学部・医学系研究科 長谷川太作, 王 淑杰, 佐藤 和正, 服部 圭祐, Rahman Mohammad Aminur

農学部・生命農学研究科 田畑 亮, 多田 歩未, 小嶋 宏明, 政年佐貴恵, 村松 豪, Pheng Vutha

年代資料測定研究センター 孫 徳有

5月20日(木)(17名)

理学部・理学研究科 前田 正洋, 西浦 薫, 安井 健一, 桑名 宏輔, 五十棲規嘉

医学部・医学系研究科 伴 玲子, 荒川 大吾, 石本 卓嗣, 安田 香, ヤン 以謹

工学部・工学研究科 新美健二郎, 東又 崇晃, 北野 利明, 都築 正雄

農学部・生命農学研究科 新留ちよ美, 中村 孝博

遺伝子実験施設 釘田 雅則

5月21日(金)(15名)

理学部・理学研究科 李 霞

医学部・医学系研究科 李 永鎬, 西村 勇人, 川瀬由加里

工学部・工学研究科 加藤 洋一, 牧野 真拓, 寺内伊久哉, 東 健志, 石原 将行, 澤井 一輝, 木下 裕介,

吉田 雅則

農学部・生命農学研究科 鈴木 貴之, 高井 大輔

環境学研究科 本庄かや子

5月24日(月)(16名)

理学部・理学研究科 森島 邦博, 楠本 晃子
 医学部・医学系研究科 浦濱 善倫, 加藤 公一, 山田 豪, 安田 成臣
 工学部・工学研究科 青木 正矩, 伊藤 崇倫, 肥田 敏徳, 林 紘正, 今井 康友, 小林 延光, 遠藤 忠嗣, 森 孝正
 環境学研究科 奥田 武幸, 鶴飼 恵美

7月5日(月)(22名)

理学部・理学研究科 近藤 久雅, 横井 紀彦
 医学部・医学系研究科 川田 裕樹
 工学部・工学研究科 則竹 陽介, 前川 諒介, 安達 俊彰, 土屋 直樹, 山口 岳宏, 三宅 信輔, 尾関 靖幸, 大竹 悠介, 奥井 真士, 李 熙煥, 加賀 浩之, 酒井 朗, 近藤 博基, 有吉 恵子, 望月 省吾, 中野さくら, 間 広文, 長谷川真之, Rahman Naureen Mahbub

7月6日(火)(20名)

理学部・理学研究科 小池 規如, 濱田 要, 藤岡 敏彰, 宮西 健二, 陳 玉玲
 医学部・医学系研究科 木下 一彦, 山本 英樹
 工学部・工学研究科 福田 英俊, 笹井 亮, 古賀 尚悟, 青柳 忍, 内田 三郎, 劉 衛, 竹田 圭吾
 農学部・生命農学研究科 堀 和也, 長崎菜穂子
 地球水循環研究センター 三野 義尚
 エコトピア科学研究機構 谷口 琴代, 佐藤 綾, 神谷 壮宏

7月7日(水)(16名)

理学部・理学研究科 大野ひとみ
 医学部・医学系研究科 大橋紗矢香, 佐々木暢琢, 松本 直樹, 浅井 理沙, 杉本 研, 森本 智美, 鈴木 敦史, 川面ひとみ
 医学部附属病院 衣斐 大祐
 工学部・工学研究科 伊藤 大作, 太田 豊, 川島 渉, 永田 裕, 山口 毅, 北河 秀一

X線講習[第3種](239名)

第57回 6月7日(月)(89名)

理学部・理学研究科 岩山 広由, 奥村 恭幸, 中野 悠, 中村 智一, 後藤 晃宏, 三宅 高義, 吉本 純一, 陳 根富, 岡崎 浩三, 大池さやか, 張 修堂, 布目 陽子, 李 基春, Pal Satyanarayan
 医学部・医学系研究科 川澄 本明, 安田 成臣
 医学部附属病院 八木俊路朗
 工学部・工学研究科 乾 能久, 萩原 智則, 川島 えり, 水谷 篤史, 山本 真宏, 大野 一貴, 加藤 恵介, 藤堂 智城, 木原 崇志, 大西 寛貴, 鈴木 舞美, 山下 毅, 中川 朋美, 野澤 和史, 永瀬晃大朗, 森 知子, 藤田 航平, 岡本 卓也, 李 熙煥, 奥井 真士, 加賀 浩之, 横内 浩平, 天野 浩嗣, 中東 恒人, 長瀬 正明, 平石 剛大, 柳生 功, 香村 勇介, 三ツ橋 翔, 森田 和博, 青木 研二, 石田 崇昭, 大嶋 大樹, 亀山 博史, 小邑 健二, 山本 智也, 北野 利明, 大越 研人, 片桐 洋史, 坂尻 浩一, 古莊 義雄, Kuchar Dalibor, 中野 効彦, 伏見 真, 宮本 隆史, 呉 存有, 青柳 忍, 木下 裕介, 吉田 雅則, 巽 一蔵, 陳 長川, 内田 三郎, 近藤 博基, 水野 祥, 竹田 圭吾, 森川 雄市, 大澤 壮祐, 永井 寛嗣, 長谷川剛史, 古国府 明, 松岡 辰郎, 北河 秀一, 朱 棋鋒
 環境学研究科 奥田 武幸, 石原 正文, 竹内 明彦, 中條 将史, 寺西 真哉, 服部 高幸
 難処理人工物研究センター 金 晃鍊, 鈴木 憲司
 物質科学国際研究センター 伊藤 淳一

第58回 6月8日(火)(74名)

理学部・理学研究科 吉川 浩史
 医学部・医学系研究科 水野 大生, 菌部 佳史, 八幡 泉, 粕谷 英樹, 寺島 広昭, 上田 竜雅

工学部・工学研究科 安達 康典, 小林 由佳, 杉藤 良一, 高橋隆太郎, 伊藤 和真, 伊藤 直之, 林 幸孝朗,
中嶋 好史, 梅田 隼史, 平松 厚佑, 原 光生, 伊藤 陽一, 熊谷 勝, 世戸 公章,
望月 一宏, 浜口 友彰, 二井 優行, 矢島 克俊, 高橋 佑介, 高野 雅志, 安達 俊彰,
土屋 直樹, 則竹 陽介, 前川 諒介, 山口 岳宏, 三宅 信輔, 大竹 悠介, 尾関 靖幸,
鈴木 泰伸, 田中 淳, 浦田 朋晃, 松川 知弘, 伊藤 勇希, 牧野 真拓, 寺内伊久哉,
東 健志, 石原 将行, 澤井 一輝, 鈴木 勇佑, 荒尾 信晴, 奈良健太郎, 佐橋 亮,
木下 昌洋, 坂部 元哉, 中村 展之, 堀 素美, 栗林 俊之, 尹 龍燮, 別府 賢二,
橋谷 一志, 犬飼 学, 上坂 裕之, 城間 博行, 中野さくら, 加地 雅広, 細谷 貴志
環境学研究科 村上 拓馬, 上久保 寛, 荒谷 豪, 金 炳澈
エコトピア科学研究機構 Anita Viorel, 石崎 貴裕, 古賀麻由子, 柳 漢振, Nae Florin Andrei
物質科学国際研究センター 王 志宏
アイソトープ総合センター 飯尾 衣里

第59回 6月9日(水)(76名)

医学部・医学系研究科 李 永鎬, 川本 善之, 木下 一彦
医学系研究科附属動物実験施設 小木曾 昇
工学部・工学研究科 青木 正矩, 伊藤 崇倫, 肥田 敏徳, 林 紘正, 今井 康友, 小林 延光, 遠藤 忠嗣,
新美健二郎, 東又 崇晃, 櫛田 悠貴, 河合 磨美, 武井 香奈, 二宗 隆, 増田 淳,
萩 匠至, 吉川 武志, 川合 拓志, 酒井 啓介, 中田 裕之, 河野 孝幸, 植野 真一,
佐藤 直子, 上杉 幸弘, 岡田 信彦, 恩田 大輝, 臼井 学, 小野 拓哉, 高尾 守道,
棚瀬 智彦, 有吉 祐一, 加藤 史枝, 中野 寿基, 池野 大輔, 佐合 寿文, 鈴木 敦之,
湯川 勝規, 今岡 典子, 渡辺 美樹, 奥山 直樹, 今村 禎允, 近藤 義実, 村上 一臣,
谷口 典隆, 牧原 慧, 満沢 秀幸, 森 孝正, 都築 正雄, 安藤 新悟, 河地 貴浩,
近藤 秀幸, 金 海松, 坂田 賢治, 中野 淳弥, 山崎 浩次, 岩崎 正博, 足立 亮,
清水 公平, 夏目 真司, 岡野 真幸, 加藤 智志, 柳瀬 康行, 村松佐江子, 柳 至,
山本 幸司, 王 成偉, 陳 博, 間 広文, 木村 大至, 角倉 崇, 西谷 崇
環境学研究科 常盤 哲也
物質科学国際研究センター 小菅 園子

学部講習(講義)臨時[第3種](20名)

3月22日(月)(20名)

理学部 物理学科 浅井 求, 石井 賢太, 大隅 雄司, 梶野 顕明, 加納 康史, 黒澤 俊介, 近藤 徹,
篠山 稔晴, 杉浦 幸司, 鈴木 和彦, 筒井 康隆, 中神早紀子, 早川 直紀, 藤井 隆道,
町田奈保美, 水野 和恵, 村岡 竜二, 森嶋 裕樹, 山川奈津子, 山本礼音奈

センターを利用しての学位授与者

A. 本館

学 部	所 属	氏 名	テマ	
医学系研究科	分子総合医学専攻 病態内科学（臨床）講座 器官制御内科学	村上 隆一郎	Cyclosporin A enhances interleukin-8 expression by inducing activator protein-1 in human aortic smooth muscle cells.	博士
	機能構築医学専攻 病態外科学講座 内分泌・移植外科学	日比 八束	Is thyroid follicular cancer in Japanese caused by a specific t(2;3)(q13;p25) translocation generating Pax8-PPARGgamma fusion mRNA?	博士
	機能構築医学専攻 運動・形態外科学（臨床）講座 整形外科	光山 浩人	Calcium signaling pathway involving calcineurin regulates interleukin-8 gene expression through activation of NF- κ B in human osteoblast-like cells.	博士
	細胞情報医学専攻 脳神経病態制御学講座 脳神経外科学	若林 健一	Inhibitory effects of cyclosporin A on calcium mobilization-dependent interleukin-8 expression and invasive potential of human glioblastoma U251MG cells.	博士
	工学研究科 エネルギー理工学専攻 エネルギー材料デバイス工学講座 エネルギー材料物性工学研究室	杉山 一慶	D-Tプラズマ実験装置におけるプラズマ対向壁表面のトリチウム分布測定	修士
生命農学研究科	応用分子生命科学専攻 応用遺伝・生理学講座 動物機能制御学	山本 一郎	ニワトリにおける性決定・性分化の分子機構	博士
		池上 英宏	ニワトリのアクアポリンにおける分子生物学的研究	修士
		野村 美芽	ニワトリ視床下部の発達・分化に関する分子生物学的研究	修士
	応用分子生命科学専攻 バイオモデリング講座 動物行動統御学	安尾 しのぶ	鳥類の概日測時機構に関する研究－時計遺伝子の発現解析－	博士
		渡邊 美和	鳥類の光周性の分子機構	修士
	応用分子生命科学専攻 応用遺伝・生理学 動物生殖制御学	木下 美香	Signals and Sensors for Energetic of the Reproductive Function in the Rat	博士
		Maria Catalina de Luna Tan	Involvement of the Noradrenergic Pathway in the Glucoprivic Suppression of Pulsatile LH release in Female Rats	修士
	生物機構・機能科学専攻 バイオダイナミクス講座 生物相関進化化学研究分野	岡田 和秀	<i>Fusarium oxysporum</i> の胞子形成関連遺伝子 <i>ForENI</i> の <i>Fusarium</i> 属菌における分布と機能	修士
		神田 裕之	<i>Fusarium oxysporum</i> の病原性関連遺伝子 <i>FO#3</i> および <i>FO#CK1</i> の同定	修士
		高岡 信也	ナシ黒斑病菌およびイチゴ黒斑病菌の宿主特異的毒素生成遺伝子クラスターの構造と機能	修士
環境学研究科	地球環境科学専攻 地球化学講座	武辺 勝道	Rare Earth Element Carriers and Elemental Behavior during Diagenesis in Pacific Pelagic Sediments	博士
		梅本 頼史	シュドタキライトを用いた断層活動年代決定の試み	修士
人間情報学研究科	物質・生命情報学専攻 環境システム学講座	廣田 昌大	イメージングプレートを用いる甲状腺 ^{131}I in vivo モニタリング法の開発	博士

B. 分館

学 部	所 属	氏 名	テマ	
医学部・医学系研究科	分子総合医学専攻 生物化学講座 分子生物学	鈴木徳幸	Proteasomal degradation of the nuclear targeting growth factor midkine	博士
	分子総合医学専攻 微生物・免疫学講座 分子細胞免疫学	川本善之	質量分析によるRETの自己リン酸化部位の同定	博士
	分子総合医学専攻 微生物・免疫学講座 ウィルス学	腰塚哲朗	Identification and Characterization of the UL56 gene product of herpes simplex virus type 2.	博士
	分子総合医学専攻 病態内科学講座 代謝病態内科学	近藤紀子	Osmoregulation of vasopressin release and gene transcription under acute and chronic hypovolemia in rats.	博士
		加藤陽子	Suppressive effects of a selective inducible nitric oxide synthase(iNOS) inhibitor on pancreatic beta-cell dysfunction.	博士
		立川和重	Altered Cardiovascular Regulation in Arginine Vasopressin Overexpressing Transgenic Rat.	博士
		石崎誠二	Role of Ghrelin in the regulation of vasopressin release in conscious rats	博士
		李為国	Suppression of 3-deoxyglucosone and heparin-binding epidermal growth factor-like growth factor mRNA expression by an aldose reductase inhibitor in rat vascular smooth muscle cells.	博士
	分子総合医学専攻 病態内科学講座 免疫応答内科学	加藤佐和子	Endotoxin-Induced Chemokine Expression in Murine Peritoneal Mesothelial Cells: The Role of Toll-Like Receptor 4	博士
	細胞情報医学専攻 細胞科学講座 細胞情報薬理学 薬理 細胞情報医学専攻 腫瘍病態学 分子腫瘍学	西村隆史	CRMP-2 regulates polarized Numb-mediated endocytosis for axon growth.	博士
		Perpelescu Marinela	DNA複製酵素阻害メカニズムを持つ新規抗ガン剤の探索	博士
		Siripan Limsirichaikul	DNA複製とゲノムスタビリティ	博士
		田中活水	細胞膜のTriton X-100不溶性ミクロドメインにおけるスフィンゴミエリンならびにその代謝酵素の分布とその意義	修士
	機能構築医学専攻 病理病態学講座 腫瘍病理学	児玉良典	GDNFによるCRMP-2の発現誘導とプロモーター領域の解析	博士
		橋本瑞生	ヒト癌におけるCD109の発現の解析	博士
		福田直行	GDNFにより発現誘導される遺伝子、GZF1の同定と機能解析	博士

分館利用講座の共同研究員として利用し、得た成果によって他大学で学位を取得した者。

	細胞情報医学専攻 臨床薬物情報講座 医療薬学	宮崎雅之	メタンフェタミン誘発精神行動障害の発現機序に関する研究(京都薬科大学)	修士
--	---------------------------	------	-------------------------------------	----

放射線安全管理室からのお知らせ

2004年度後期予定

●本館●

10月 冷暖房切替
RI講習会・X線講習会
11月 漏電調査
12月 2期期末チェック（～12/24）

2005年

1月 3期利用開始（1/8）
RI講習会

2月 施設・設備点検
3月 2005年度利用申請
2005年度健康診断手続き
3期期末チェック（～3/26）

（新人オリエンテーションは、毎月一回開催、開催日は掲示します）

●分館●

10月 3期利用開始（10/1）
12月 4期実験計画書提出期限（12/3）

2005年

1月 4期利用開始（1/4）
下半期利用料金等請求

2月 施設・設備点検
3月 2005年度実験計画書提出期限（3/4）
再教育講習会（3/7, 8, 25）

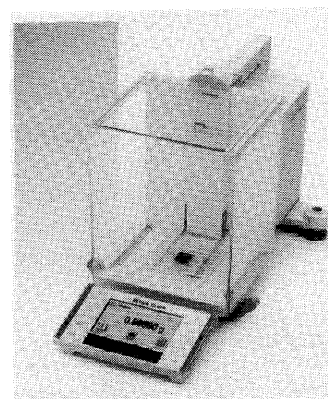
（分館利用説明会は、毎月一回以上開催、開催日は掲示します。）

機器紹介

新しく機器を設置しました。ご利用下さい。

本館

機 器 名	設 置 場 所	紹 介 説 明
分析用電子天秤 XS205DU (METTLER)	新館 4階405室	・ 標識実験時等に要望のあった電子天秤を購入しました。 ・ 最小表示：0.01mg，最大ひょう量：220g



委員会の報告

第94回協議会

平成16年 3 月16日開催

報告事項

審議事項

1. 教官選考について
2. 平成17年度施設整備費概算要求について
3. 法人化に伴う規程等の改正について

1. 協議会報告について
2. その他

報告事項

1. 運営委員会報告について

第109回運営委員会

平成16年 5 月21日開催

審議事項

1. 教員人事について
2. 内規の制定について
3. 共同研究について
4. 平成17年度概算要求ヒアリング結果について
5. その他

報告事項

1. 平成17年度概算要求ヒアリング結果について
2. 協議会報告について

第95回協議会

平成16年 6 月15日開催

審議事項

1. センター長候補者の選任について
2. 教員選考について
3. 内規の制定について
4. 共同研究について
5. 平成17年度概算要求ヒアリング結果について
6. その他

報告事項

1. 運営委員会報告について
2. 平成16年度第28回アイソトープ総合センター長会議報告

第110回運営委員会

平成16年 6 月11日開催

審議事項

1. センター長候補者推薦について
2. その他

報告事項

1. 平成16年度第28回アイソトープ総合センター長会議報告

第96回協議会

平成16年 9 月21日開催

審議事項

1. 平成15年度運営費決算（案）について
2. 平成16年度運営費予算（案）について
3. 中期目標，中期計画について
4. コバルト60照射施設について
5. その他

報告事項

1. 協議会報告について

第111回運営委員会

平成16年 9 月14日開催

審議事項

1. 平成15年度運営費決算（案）について
2. 平成16年度運営費予算（案）について
3. 中期目標，中期計画について
4. コバルト60照射施設について
5. その他

報告事項

1. 協議会報告について

第108回運営委員会

平成16年 2 月20日開催

審議事項

1. 教官選考について
2. 平成17年度施設整備費概算要求について
3. 法人化に伴う規程等の改正について

アイソトープ総合センター
協議会協議員名簿

平成16年4月1日現在

所 属 ・ 職 名	氏 名
セ ン タ ー 長	西 澤 邦 秀
情 報 科 学 研 究 科	大 西 昇
大 学 院 医 学 系 研 究 科	高 橋 雅 英
大 学 院 理 学 研 究 所	近 藤 孝 男
大 学 院 工 学 研 究 科	小 野 木 克 明
大 学 院 生 命 農 学 研 究 科	小 林 迪 弘
大 学 院 環 境 学 研 究 科	林 良 嗣
環 境 医 学 研 究 所	村 田 善 晴
原 子 力 委 員 会 委 員 長	河 出 清
安 全 保 障 委 員 会 委 員 長	饗 場 弘 二
分 館 長	古 川 鋼 一
年 代 測 定 総 合 研 究 セ ン タ ー 長	鈴 木 和 博
大 学 院 理 学 研 究 科	饗 場 弘 二
大 学 院 工 学 研 究 科	河 出 清

アイソトープ総合センター
運営委員会運営委員名簿

平成16年4月1日現在

所 属 ・ 職 名	氏 名
セ ン タ ー 長	西 澤 邦 秀
大 学 院 理 学 研 究 科 助 教 授	中 島 洋
大 学 院 医 学 研 究 科 教 授	門 松 健 治
大 学 院 工 学 研 究 科 教 授	飯 田 孝 夫
大 学 院 生 命 農 学 研 究 科 教 授	前 島 正 義
情 報 科 学 研 究 科 教 授	森 昌 弘
環 境 医 学 研 究 所 助 教 授	神 部 福 司
大 学 院 環 境 学 研 究 科 教 授	田 中 剛
分 館 長	古 川 鋼 一
アイソトープ総合センター助教授	竹 島 一 仁
アイソトープ総合センター助教授	柴 田 理 尋
大 学 院 理 学 研 究 科 教 授	饗 場 弘 二
大 学 院 工 学 研 究 科 教 授	河 出 清
大 学 院 生 命 農 学 研 究 科 教 授	水 野 猛
アイソトープ総合センター講師	安 達 興 一

人 事 異 動

—はじめて—

曾 原 康 巖 (助手)

平成16年8月1日 採用

編集後記

この夏のアテネオリンピックでの、日本選手の活躍はすばらしかった。獲得したメダル数は史上最多の37個。選手たちは、多くの人から期待され、ものすごいプレッシャーの中で戦い、成績を残した。すごいなー、凡人の私から見れば、メダルをとらなくとも、たとえ10位でも20位でも、世界で数えられる順位にいることだけでもすごいことだと思う。日本のプロ野球セリーグでは、中日ドラゴンズが優勝し、次は日本シリーズである。地元ファンとしては、中継やニュースを聴くのが楽しく、良い年である。

一方、今年の日本は自然災害が多い。9月7日には台風18号が来襲した。今年に入って7個目の日本上陸、すでに過去最高だとか。また、9月5日には東海道沖を震源とする地震が2回あり、センターは震度3であった。地震があった場合、点検や地震被害への対応はもちろんであるが、センター（大規模放射性同位元素等取扱事業所）は、震度が4以上の場合、文部科学省へのメール連絡が必要であり、震度数が気にかかる。今回の地震は夜であったが、日頃準備のセンター職員間の連絡体制が役に立った。心配は、震源地が大規模な地震が想定されている東南海地震の想定震源域のすぐ南方だったことだ。同じ地域を震源とする小さな地震が何度もあったようだ。大きな地震が来ないことを祈りつつ、心構えだけはしておかなければと思う。

(H. K.)

トレーサー編集委員

委員長	西澤邦秀
幹事	柴田理尋
	小島久
	中村嘉行
	中澤志げ子

Tracer 第36号

平成16年10月25日 発行

編集 名古屋大学アイソトープ総合センター教育・広報委員会

発行 名古屋大学アイソトープ総合センター

〒464-8602 名古屋市千種区不老町

電話 <052> 789-2563

FAX <052> 789-2567

印刷 新協和印刷株式会社